

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第91号

ななえ古写真物語

VOL. 91

歴史に学ぶこと

陸軍上等兵村葬の様子

昭和15年

七重小学校



奇しくも、この写真について文字を綴り始めた矢先、集団的自衛権の行使が可能となる安全保障関連法案が、衆議院で可決された。憲法9条に反するとの声も上がったが、武力行使の要件として、日本の存続を明白に脅かす危険があること、他に適切な手段がないこと、必要最小限の実力行使に留めることが、厳格な歯止めとなるとされ、今後は参議院での審議となる。

戦後70年の節目の年、戦争を経験していない人たちが大半を占める世の中を象徴しているようにも窺える今回の可決については、世論の見方も様々である。賛成派・反対派ともに日本の平和を願っていることには変わらないのだが、どちらが正しい判断なのかと問われると、その答えは難しい。

憲法などの文言の解釈は、時として小さなほころびを生み、有事へつながることがある。歴史を学び伝える役割を担う立場として、そのことは、しっかりと覚えておかななくてはならないと認識している。先人たちが、どういった決断をし、結果どのような状況へつながり、現在に至っているか。その歴史を知り、今を生きる自分たちはどのような判断をするかを考えることが、歴史を学ぶことだと思う。

戦後70年を迎える七飯町にも、戦時中の様子を描く写真が多々残っている。戦争に駆り出され出征する様子を写したものの、男手が極端に減ったため、学校の授業として畑仕事に従事する子どもたちの様子。そして、上の写真のように戦争で亡くなった方の葬儀まで記録されている。

この写真は、戦地で亡くなられた陸軍歩兵の葬儀を七重小学校の講堂で執り行われた様子を写したもので、「七飯村長」や「帝国在郷軍人会七飯村分会」の名で供花があげられていることや、10人もお坊さんがいることから、村をあげての葬儀だったと思われます。参列者の方に目をやると、右側に「大日本国防婦人会」、左側は「愛国婦人会」のたすきをかけた女性。そして、その中に子どもたちの姿も見ることが出来る。

七飯町史によると、町内の戦争犠牲者は302名。しかし、忘れてはならないのは、戦争は多くの命を奪うだけではなく、大切な人を失う悲しみを否応なく背負わされる銃後の人々を生み出すことではないでしょうか。

戦後70年。私たちは今一度、歴史から学ばなくてはならない事があるようだ。

3日

夜の博物館前期講座がスタートしました。第一夜は「ななえの巨木たち」と題し、当館学芸員が、町内に分布する巨樹や古木について、写真を用いながら、その歴史や伝説を解説しました。樹齢500年を超えるというイチヨウの木やクリの木をはじめ、ブナやアカマツ、イチイなど、意外と知られていない巨木たちを知り、参加者は一生懸命メモを取るなど、興味深く聞いていました。



25日

天候不良で延期となっていた星空観察会を開催しました。今回の会場は大中山コモン。まずは館長が春から夏に見られる星座の探し方などを説明し、その後屋外で木星や金星、そして月を天体望遠鏡で観察しました。普段よりも大きく鮮明に見える月の姿に参加者からは驚きと感動の声が上がっていました。また、後半には土星も見る事ができ、おもに氷の集合体で構成される独特な環の姿を楽しめました。わずかでしたが、ホシゾラの世界を堪能した時間となりました。



27日

ジュニア探検クラブでは、登山に挑戦と題し、七飯岳登山を計画していましたが、あいにくの雨。予定を変更して、北斗市郷土資料館の見学と勾玉作りをしました。北斗市郷土資料館では、解説を聞いたあと、自分たちが気になった資料をスケッチして、使い方を調べたりしました。勾玉作りは彫石を素材に、小刀で大まかに形を作り、その後、紙やすりを使って磨きます。段々と光沢が生まれていく勾玉に紐を通して、持ち帰りました。予定外の雨でしたが、それなりに楽しめた一日になったようでした。



8月の予定

1	土	駒ヶ岳の植物観察会
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	夜の博物館
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	ジュニア探検クラブ
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

8月の休館日はありません。

垣根の手入れ

当館の敷地には、ドウダンツツジの垣根があり、長らく伸び放題でしたが、この度、思い切って剪定。少し不揃いなところもありますが、気分一新です。



編集後記 ~tawagoto~

ある朝、机の上になにやら立体的な荷物が。開館前に宅急便で届けられたという。青森から送られたその袋を開封してみると、中から人形らしきものが・・・???と思いながら取り出してみると、青色を基調とした「いくべえ」というキャラクターがつぶらな瞳で「よろしく!」とうったえかける。ご活用下さいの言葉に甘え、当館を訪れた「いくべえ」には、事務室前のカウンターで来館者を見守る任務についてもらっている。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~
第91号

平成27年7月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp